

『悪霊1』主要登場人物



ステパン・トロワイモヴィチ・ウエルホヴェンスキー……西欧派の進歩的文化人。ウルワラ夫人の

「親友」。かつてニコライの家庭教師をした縁で、スタヴローギン家の食客となる。

ピョートル(II)・ペトルーシヤ・ビエール・ウエルホヴェンスキー……ステパンの息子。ペテルブルグの大

学を卒業後、ヨーロッパ各地を転々としたあとこの町にやってくる。

ウルワラ・ペトロウナ・スタヴローギナ……スクヴォレーシニキ村の大地主、未亡人。町の有力者。

ニコライ(II)・ニコラ・ラセヴォロドヴィチ・スタヴローギン……ウルワラの一人息子。知力体力とも

に優れた美青年。ヨーロッパ各地の遊学、ペテルブルグ生活のうち、四年ぶりに帰郷。

プラスチック・ウイヤー・ドロストフ……ウルワラの女学校時代からの友人。地主。リーザの母。

リザウエータ(II)・エリザウエータ・リーザ・リース・ニコラエーウナ・トウシナ……プラスチック・ウイ

ヤーの一人娘。莫大な財産の相続権を持つ。ステパン・ウエルホヴェンスキーのかつての教え子。

Y50
M80

DIC
2397p

悪霊1

しおり(表面)

マヴリーキー・ニコラーエヴィチ・ドロストフ……謹厳実直な大尉。リーザのいとこで婚約者。

ユーリヤ・フォン・レンプケ……町に赴任した新しい県知事の夫人。リーザの遠縁にあたる。

キリーロフ……建築技師。独特の「人神論」を唱える。ウエルホヴェンスキー氏のサークルのメンバー。

リプーチン……サークルのメンバー。県庁役人。吝嗇でゴシップ屋のフリーエ主義者。

シャートフ……ウルワラの農奴の息子。大学除籍後はヨーロッパなどを放浪し、帰郷。

ダーリヤ(II)・ダーシヤ……シャートフの妹。ウルワラの養女で同家に暮らす。

ヴィルギンスキー……町の役人。サークルのメンバー。まれに見る純真な心の持ち主。

イグナート・レピヤートキン……自称「退役二等大尉」。大酒飲み。ペテルブルグでニコライと会う。

マリヤ・レピヤートキナ……イグナートの妹。足の悪い「神がかり」。修道院暮らしの体験がある。

カルマジーノフ……かつて世を風靡したロシアの大家。県知事夫人ユーリヤの遠縁にあたる。

(アントン・ラヴレンチエヴィチ)G……この小説の語り手。ウエルホヴェンスキー氏の友人。

Y50
M80

DIC
2397p

悪霊1

しおり(裏面)